

児童・生徒の現状・課題

- ・先の見通しをもつことが苦手
- ・探究的な意欲は見受けられない
- ・課題に取り組む意味・意義に理解が至らない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○単元や小単元の終わり等で、まとめ活動や学習の振り返り活動などの場面を設定し、「分かった」「できた」と生徒自身が感じられるようにする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	74.6	80.0	
②学習した内容や方法、自分の力をどれだけのばすことができたかなど、振り返りことができる。	76.8	80.0	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	50.0	60.0	
②問題や課題に取り組んでも上手にいかない時には、どうすればよいか、児童・生徒が自ら方法を選択し行動できるよう、解決の方法を示している。	85.7	90.0	

具体的な手だて①**【Qubena の活用】**

毎時間ワークブック等に取り組ませ、苦手を可視化する。苦手な問題を繰り返し解かせることで「分かった」「できた」と感じさせる。

具体的な手だて②**【振り返り活動】**

単元や小単元の終わり等で振り返り活動を行い、学習前後で既知の内容が増えたことを可視化し、「分かった」「できた」と感じさせる。

具体的な手だて③**【課題設定の工夫】**

授業内に、生徒自ら難易度が設定できるような課題設定を行う。それにより、自分から進んで計画を立てて学習する力を育てる。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・各研修内容を、C4th 等連絡掲示板を活用して共有し、その場のみの理解にならないようにする。

総括(7月)

学習において、「先の見通しをもつことが苦手」「探究的な意欲に課題がある」といった課題が見受けられた。そこで、単元の節目等での「振り返り活動」を充実させる改革を全教科で取り組み、「分かった」「できた」と感じさせていくことを全教員で共通認識としてもらった。

総括(1月)